



仁淀病院からのお知らせ

～花粉症について～



仁淀病院耳鼻科 関 博之

花粉症で多くの方がお困りになるのは鼻の症状と目の症状です。鼻の治療については昨年「いの広報2月」に掲載しました。(仁淀病院耳鼻科外来にて掲示中)

目の治療について、仁淀病院眼科水曜日担当の坂本先生にお話を聞きました。

坂本：今年は、昨年夏の猛暑の影響でしょうか？

昨年に比べてスギの花粉量が3倍と予想されているそうです。アレルギー症状は、抗原（スギ花粉）に対する暴露許容量を超えた時に症状が出始めます。つまり、人それぞれにスギ花粉に対するコップを持っていて、そのコップが溢れ出した時に溢れた量だけ症状が出るといった感じでしょうか。ですから、昨年までは全く症状がなかったのに、今年は突然酷い症状が出るといったことも起こるわけです。花粉症の眼症状は、目のかゆみ・充血が

定型症状ですが、目を擦ることによって、急激に、球結膜（白目の部分）がゼリー状に膨れて、目

が閉じられないほどになることもあります。また、眼周囲が赤く腫れあがってしまうこともあります。

どちらの場合も、突発的で重症感が強いので、緊急外来を受診されるケースも多いようです。この場合、点眼や眼軟膏治療に加え、かゆみが強いようであれば、内服薬が必要となるケースもあります。無意識に擦っているケースも多いので、「擦らないように!」と指導して意識させることも必要かと思えます。



関：耳鼻科では、病院を受診していただければ鼻の処置をすることで症状が軽くなります。外来での鼻処置に加え、内服薬や点鼻薬を処方しています。アレルギーの治療内服薬は眠くなるイメージがありますが、最近は眠くない内服薬もあります。ただ、個人差が大きいので、その薬が自分に合っているかは最低2週間続けて使ってみることをお勧めしています。点鼻薬は1日2回鼻に差すものが多かったですが、最近は1日1回で済むものがあります。

坂本：点眼薬の使用回数は、点眼の種類やその時の重症度によって異なるので一概には言えません。その時の主治医の指示に従っていただくのが良いと思います。

ご存じの通り、アレルギーの治療は、予防投与が重要とされていますので、急性症状が出現する前、花粉飛散の2～3週間前から抗アレルギー薬（点眼&内服）を前投与することで症状の重篤化を抑えることが可能な場合も多いようです。

関：ということはちょうど、この記事の載っている広報が発行されるころが予防投与開始時期になりますよね。この記事を読んで花粉症が心配な方は、1日でも早く予防治療を開始するべく病院に行かれることをお勧めします。

坂本：そうですね。今年は花粉飛散量も多いようですし、早めに治療を始められることをお勧めします。特に、昨年すでに症状が強く出た方は、予防投与をしっかりとっておかれることが重要だと思います。

関：坂本先生ありがとうございました。

自動車の不具合情報をお寄せください。

国土交通省では、迅速なりコールの実施やリコール隠し等の防止のため、「自動車不具合情報ホットライン」を通じて、皆さんのお車に発生した不具合情報を収集しております。お車に不具合が発生した際には、情報をお寄せください。

- フリーダイヤル ☎ 0120-744-960 (平日・日中)
- 自動音声 ☎ 03-3580-4434 (年中無休・24時間)
- ホームページ受付 🌐 www.mlit.go.jp/RJ/

